

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	32	学校名	郡上高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	多様な夢を実現する高校として 確かな学力の育成と郡上地域の特性を活かした専門的で探究的な学びを通して 次世代の地域社会に貢献するリーダーの育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	校訓「凌霜」の精神のもと、自己の可能性に挑戦する生徒や、主体的な学びを通してふるさとに誇りと親しみを抱き、地域社会に貢献できる生徒を育成する。 ・主体的に学び行動し、自ら未来を切り拓く力をもった生徒を育成する。 ・「凌霜」の精神をもち、自己の可能性に挑んで高い人間力の形成を図る。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分に自信のもてる生徒（自己肯定感の高い生徒）」自身のストロングポイントを生かし、自分らしさを魅力として予測困難な社会の中で力強く生きる自立した生徒</li> <li>「心が美しい生徒」多様性を尊重し、協調する力をもち、世界の一人として正しく行動する生徒</li> <li>「ふるさとに誇りと愛情をもった生徒」人情味や伝統文化を育んだ郷土に誇りをもち、育んだ能力を地域創成に生かす意欲をもつ生徒</li> </ul>	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学びたいことが学べるカリキュラム」一人ひとりの可能性を見極めて進路選択の能力を育み、生徒の意欲に応えられるカリキュラム</li> <li>「やりたいことが思い切りできる教育活動」行事や生徒会活動、部活動の充実した取り組みの中で人とつながり、視野を広げることで生きる意味を創造</li> <li>「一流に触れさせ、本質や本物を求める授業等の展開」生徒の興味や資質に応じた幅広い選択、及び企業や地域から招聘した外部講師の活用を通して好奇心を伸ばし、自ら学ぶ学習者を育成</li> </ul>	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>やる気のある熱い生徒 学習や部活動、地域の活動、校内外行事で何かを成し遂げたいという情熱を秘めた生徒</li> <li>人の気持ちを考えられる生徒 自分や他者を大切に思い、また、その気持ちを伝えられる生徒</li> <li>ふるさとを大切に想う生徒 郷土に誇りと愛情をもち、地域の方と積極的に関わりながら社会で生きる力を身に付けたい生徒</li> </ul>	

学校の抱える課題	①地元中学生の流出 ②地域連携事業の充実 ③郡上高校の魅力伝える広報活動 ④生徒の幅広い進路選択に対応できるカリキュラム編成 ⑤教職員を取り巻く環境改善
----------	--

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	地域と積極的に連携した魅力ある学校づくりを推進する (①②③④) 業務内容や業務の進め方を見直し、多忙解消と緩和に取り組む (⑤)	
	学習指導	多様な学びや幅広い活動を実現できる教育課程の充実を図る (④) 指導と評価の一体化を図り、学習意欲の向上を図る (④)	
	進路指導	自己を見つめ、主体的に進路選択をするための能力や態度を育成する (④) 家庭での学習習慣形成を支援するとともに、補習授業等発展的な学習機会を提供することで、基礎学力の充実と応用力の伸長をめざす (④)	
	生徒指導	自己を認め他者を受け入れる生徒指導を充実させ、好ましい人間関係の構築を図る。 家庭や地域社会との連携を強化し、相談・協力体制の充実を図る。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	地域の様々な教育資源等を活用した教育を推進し、多様な人とつながり、関わる力の育成を図る。	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>教職員の研修受講</li> <li>関係者による評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通科の総合的な探究の時間や農業科の課題研究において、行政や企業、地域住民と連携して生徒一人一人の良さが伸長されるような教育活動を推進した。</li> <li>文化祭や体育祭、進路ガイダンスにおいて地域住民や保護者に活動状況を公開した。</li> <li>探究活動や課題研究において、学びのフィールドを学校外に広げて地域の方から学び、「ふるさと教育」を推進した。</li> <li>研究授業や公開授業日を受け、教員同士がお互いの授業を見て学び合う機会を複数回実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探究活動や課題研究で顕著に見られるように、主体的に学びに向かう姿勢や思考力、表現力が育っており、自身の進路実現につながる生徒もいる。今年度は国公立大学を学校推薦型選抜で16名中6名、総合型選抜で4名中3名の生徒が合格した。</li> <li>○農業科では郡上市、県、農林業関係団体と連携して、担い手育成や地域教育を推進できた。</li> <li>○全教科で校内研究授業を行い、全職員が研修した。</li> </ul>	B
	学校運営や教育活動を、地域住民や保護者など地域一体となって進めることにより魅力ある学校づくりを推進する。	施策Ⅳ-20					
	地域に暮らす人々、専門家など多様な人々の協力を得て「ふるさと教育」を充実させ、「ふるさと岐阜」への更なる誇りと愛着を育む。	施策Ⅰ-4					
	教職員が学び合う文化の醸成、協働的な職場環境づくりが根付いていくように校内研修の活性化を推進する。	施策Ⅳ-26					
学習指導	ICTを効果的に活用し、生徒の理解の質を高めることができる新しい授業スタイルを提供する。	施策Ⅱ-9	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>校内自己評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業、公開授業を通して効果的な使い方方を研究することができた。</li> <li>進路希望や興味に応じて、あらゆる学力層のニーズに応えるカリキュラム編成としている。</li> <li>全国大会につながるコンクールにエントリーできている(3チーム)。</li> <li>講師の招聘及び訪問、行事参加や施設見学等を活発に行っている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲生徒はICT機器が有効に活用されていると感じている。ネットワークの安定、準備の効率化を進めたい。</li> <li>▲人数の偏りや選択者数によって、閉講せざるを得ない場合があった。</li> <li>○協働や主体的な活動を通して、探究活動の積み上げや深化ができた。</li> <li>○それぞれの学科での学びと関連のある進路先を希望する生徒が一定数見られた。</li> </ul>	B
	普通科において、習熟度授業の実践や応用クラスの編成により、多様な学力層の生徒に適切な学びの場を提供する。	施策Ⅱ-8					
	総合的な探究の時間や課題研究を中心に、SDGsを理解し自分事として捉え、他者との協働を通して自分の考えを深める教育を推進する。	施策Ⅱ-12					
	地域の産業界との連携により、農業に関する高い専門性を育む教育を推進する。	施策Ⅱ-14					
進路指導	適切な情報提供や進路相談を丁寧に行い、生徒の希望と適性に応じた進路支援を行う。	施策Ⅱ-13	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>探究活動の実績</li> <li>進路実績</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な進路希望に対応したガイダンスの実施と情報提供を実施した。</li> <li>関係団体と連携し、ガイダンスやインターンシップ等を実施し地元の産業界や企業を知る機会とした。</li> <li>地域と連携し協力を得ながら、地域課題を解決するための探究活動を充実させることができた。</li> <li>大学見学を実施し、最先端の研究内容に触れることができた。また夏季休業中のオープンキャンパスへの参加を積極的に促した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係団体と連携を取りながら、多様な進路希望に応じたガイダンス等を各年次で実施し適切に進路情報を提供することができた。</li> <li>○普通科の探究活動や、農業科の課題研究で取り組んだ内容から新たな課題を見出して、自身の将来の進路選択に繋げる生徒もいる。</li> <li>▲学校推薦型選抜、総合型選抜を志望する生徒の準備不足や、一般入試に向けての動き出しの遅さが引き続きの課題である。早期かつ計画的な対応を継続的に行う必要がある。</li> </ul>	B
	地域、産業界、関連機関等と連携したキャリア教育を促進する。	施策Ⅱ-13					
	個人の課題や社会の課題を発見し、地域の人と関わりながらその解決に向けて主体的に取り組み、考えを表現する機会を提供する。	施策Ⅰ-4					
	情報技術やものづくりに対する知的好奇心や専門性を高めるための活動機会を充実させ、生徒の強みや個性の伸長を図る。	施策Ⅱ-10					
生徒指導	人権尊重の視点から、望ましい人間関係の構築、性の多様性への配慮、不登校・問題行動・いじめの未然防止と早期対応を促進する。	施策Ⅰ-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>保護者アンケート</li> <li>校内自己評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な講話を通して、「命の大切さ、尊厳」を根幹に自分や相手の人権を尊重すること、他者との適切な関わり方、そして自分自身を守る方法を生徒に伝えた。</li> <li>いじめ未然防止のため、定期的実施するアンケート等を機に、いじめの定義の確認と相手を理解し受け入れることで、相手の価値観を尊重することができることを生徒に伝えてきた。</li> <li>各種アンケート、教育相談などから得た情報をもとに、専門家と連携し対応してきた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思いやりのある学校生活を築けるよう、日頃から仲間を尊重し、互いの違いを認め合う姿勢の大切さを全教員で伝えることができた。今後も一人一人が高い人権意識を持てるようにしていく。</li> <li>○人間関係や学業に関する生徒の悩みに対して、教員間で共有し、保護者とも連携をはかり、迅速に対応することができた。</li> </ul>	B
	家庭や地域社会との連携を強化し、関係諸機関との相談・協力体制のもと教育相談体制を充実させる。	施策Ⅰ-3					
	青少年が巻き込まれる犯罪をはじめ、複雑化する様々なトラブルに対応するため、啓発強化を図る。	施策Ⅰ-7					
	一人一人の多様な教育的ニーズに対応するため、スクール相談員や外部機関等と連携して適切な指導支援を行う。	施策Ⅳ-21					

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年2月26日

<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度新入生から段階的にBYODが始まる。仕様が異なる端末で学ぶ集団であることを意識して授業を行う必要がある。また、生徒一人一人が個人端末を学校内で安全に保管し、管理する指導を徹底する。</li> <li>当校の生徒は部活動も探究活動にも精力的に取り組んでいる。一方で、両活動の活動時間が放課後に重なることが時々あった。方策として、「計画性」「生徒の連絡」「担当者から部顧問への連絡」をしっかり行うよう、生徒と職員に年度当初に示す。</li> <li>来年度から分掌名を生徒支援部、進路支援部とする。</li> </ul>
--

学校関係者評価 実施日：令和8年2月26日

<ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境が整っており、生徒が主体的に地域との関わりの中で探究活動を進めている。学習成果発表会では、専門的な内容や学校外での活動について興味深い発表が聴けた。</li> <li>生徒一人一人に寄り添った生徒支援がなされている。</li> <li>早期から自らの進路を考えられるような行事を計画的に実施している。多様な生徒の気持ちに寄り添った支援をお願いしたい。</li> <li>ケーブルテレビや新聞で生徒の活躍を効果的に広報すると更によい。</li> <li>高校生のヘルメット着用を促進し、自らの命を守る指導を進めてほしい。</li> </ul>
---